



令和4年11月17日 第6号

安方中だより

大田区立安方中学校

躰(しつけ)について

校長 佐藤 彰

秋も深まり、爽やかな天気の日が続いています。校庭や体育館からは、元気に体を動かして運動を楽しむ生徒の声が聞こえてきます。

しかし、年の瀬に向かう今般、新型コロナウイルスの感染が再び拡大しようとしています。第7波が終息する前に、すでに第8波に入ったという分析もあるようです。私たちはこれまで、コロナとの向き合い方を学び、コロナ禍の生活様式を模索してきました。

学校はこれからも、対面とオンラインを併用したハイブリッド型の様式を活用し、基本的な感染防止対策を継続してまいります。ご家庭でも、お子様の健康観察とマスク・手洗い等へのご協力をよろしくお願いいたします。

さて、表題の躰とは、礼儀や作法、マナーといったことを教え込むことです。礼儀や作法、マナーは学校や社会でお互いが気持ちよく生活するために必要です。お互いが気持ちよく生活できることは、とても幸せなことです。つまり、躰とは自分やまわりを幸せにするためにあると考えることができます。

日本を代表する教育哲学者だった森信三先生は、「躰の三原則」を提唱されました。それは、「あいさつ」「返事」「はきもの」の三つです。

1. 朝、「おはようございます」と元気にあいさつをする。
2. 呼ばれたら、「はい」と返事をする。
3. はきものをきちんとそろえ、席を立ったらいすを入れる。

簡単なことのようにですが、この三つが躰の基本であり、これを「つ」のつくうちに身に付けることが大事だと言われています。「つ」のつくうちとは、「ひとつ・ふたつ・みつつ・・・やつつ・ここのつ」のことです。つまり、9歳までには身に付けさせるということです。また、子どもに言うだけでなく、大人が率先して行動で示すことが大切だと提唱されています。

余談ですが、企業の経営者などには、トイレに入ったらスリッパを必ずそろえる習慣を大切にしている人もいます。

躰が身に付くと、人間の「我」がとれるそうです。「我」とは、「自分勝手なことを主張する、人に従おうとしない、わがまま」などの意味合いがあります。「我」がとれるということは、素直な気持ちになることであり、様々なことを受け入れる心の状況が整うということです。こうなると、いろいろなことを学び、吸収して大きく伸びていくことができます。

反対に、「わがままな人間に成長なし」と言って、「我」の強い人間は人の言葉を素直に受け入れることができず、変わることが難しいといえます。

中学生になっても、躰の大切さは変わらないと感じています。9歳はどうに越えていますが、家庭でも学校でも粘り強く伝えていくべきだと感じています。大人が率先して、自分自身を躰けることを大事にしながら。

さて、10月2日～4日にかけて、3年生は修学旅行で京都・奈良を訪れました。その様子は、学校ホームページで詳しく紹介してあります。

引率していて強く感じたのが、3年生が心から修学旅行を楽しんでいたということです。見ている私たちまで、嬉しい気持ちや幸せな気持ちになりました。3年生の多くが、「我」がとれて、素直で優しい心が育っているからだと感じました。先生方の言葉を素直に聴き入れて、お互いに気を配ることができたからこそ、幸せな時間が過ごせたのではないのでしょうか。

これまで、保護者の皆様や小学校の先生方、本校の教職員の地道で粘り強い躰や関わりがあつてのことだと思います。皆様に感謝申し上げます。

修学旅行の様子

